



〔海の状況 (4/16~5/15) 〕

- ・神子地先の表面水温… 期間を通して、平年並み(平年差±0.5℃)から平年よりやや高め(平年差0.5~1.0℃)で推移した。(図1)
- ・米ノ地先の表面水温… 期間を通して、平年並み(平年差±0.5℃)で推移した。(図2)

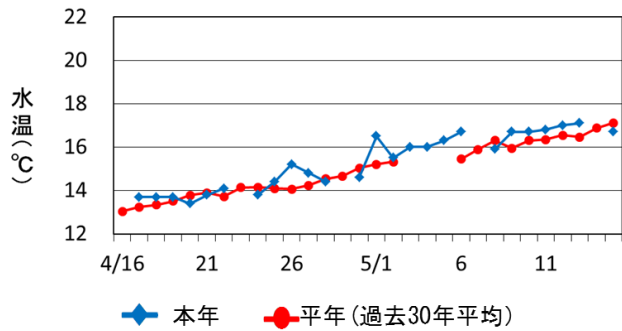


図1. 若狭町神子地先における表面水温の推移

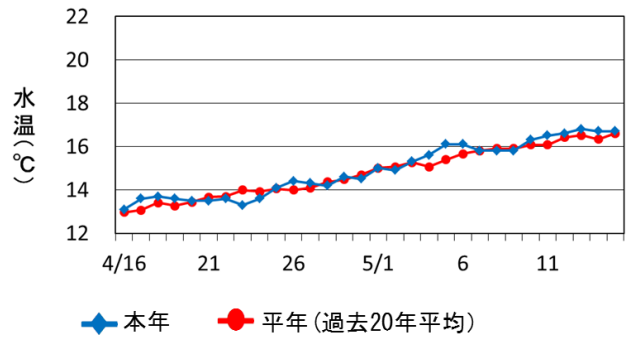


図2. 越前町米ノ地先における表面水温の推移

〔若狭湾および周辺海域の海況：4月〕

4月の若狭湾およびその周辺海域の水温分布は、表層(0m)では、三国～富山の沿岸部が10~12℃と前年より低くなっていた。また、水深100mでは、山陰・若狭沖冷水域は、規模はやや小さく、やや離岸していた。(図3)

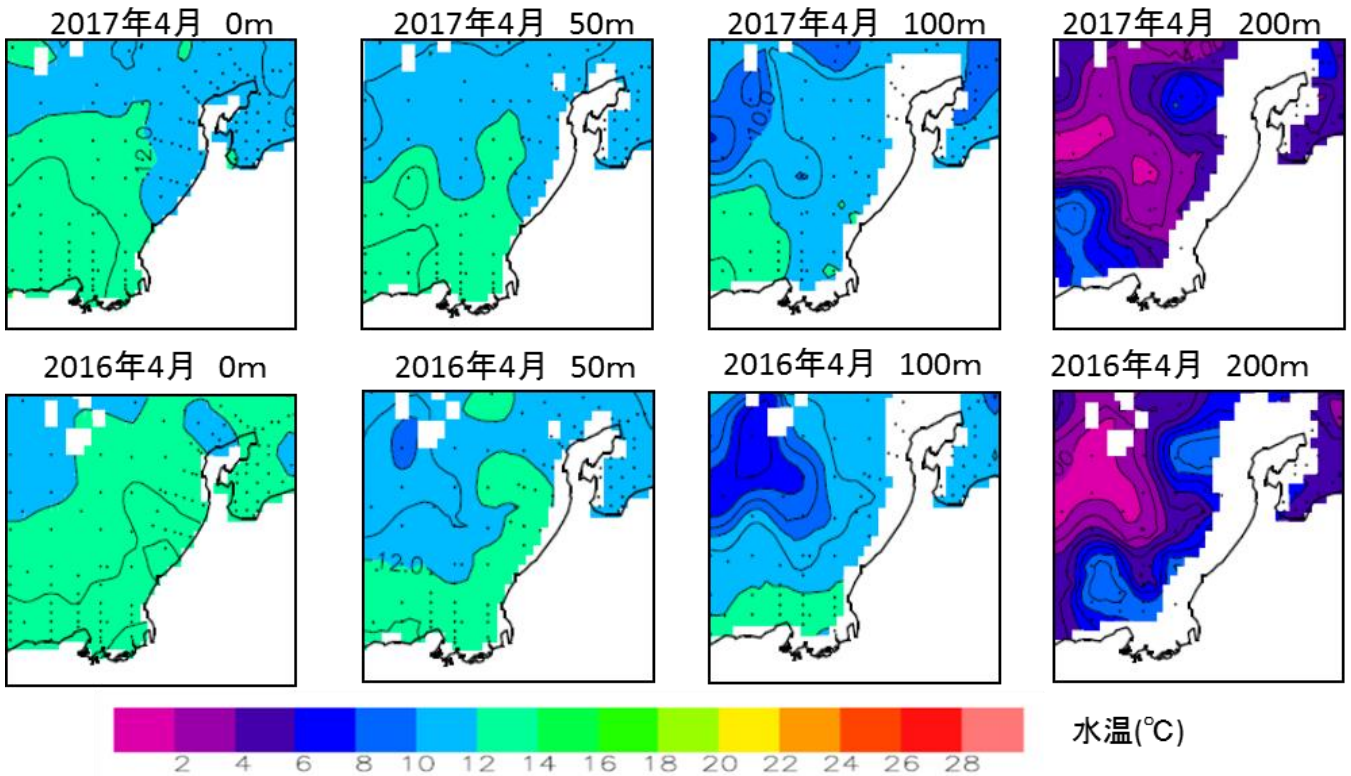


図3. 若狭湾およびその周辺海域の水温分布図 (日本海区水産研究所の日本海漁場海況速報より抜粋)

平成 29 年度 第 1 回 日本海スルメイカ長期漁況予報

水産研究・教育機構 日本海区水産研究所から発表されました見出しの予報に、今後(2017年6~7月)に関する情報がありますのでご紹介します。

○来遊量：不漁であった前年並みで近年(2012~2016年)平均を下回る。

※水産研究・教育機構のホームページ(<http://www.fra.affrc.go.jp>)においても閲覧することができます。
(漁場環境グループ 山下 慎也)

〔県内の漁模様：4月〕

2017年4月の県内の総漁獲量は1,083tで、昨年同月を22t上回った。

〔定置網〕

漁獲量は606tで、昨年同月を43t上回った。サバ類、ブリ銘柄、スルメイカ等は昨年同月を上回り、アジ類、ツバス銘柄、サワラ等は下回った。

〔底びき網〕

漁獲量は370tで、昨年同月を25t上回った。アカガレイ、ハタハタ、アカエビ等は昨年同月を上回り、スズキ、ヒラメ、ホタルイカ等は下回った。

〔釣り・その他〕

漁獲量は107tで、昨年同月を45t下回った。サワラ、マダイ、スズキ等は昨年同月を上回り、キダイ、サヨリ、スルメイカ等は昨年同月を下回った。

表. 主要魚種の漁法別漁獲量(4月)

定置網	(kg)				
魚種名	2017年	2016年	平年	前年差	平年差
カタクチイワシ	816	3,090	4,094	-2,274	-3,278
アジ類	11,153	65,702	73,881	-54,549	-62,729
サバ類	259,872	2,446	3,271	257,426	256,600
マグロ類	1,344	637	1,655	707	-310
ブリ類	171,711	236,226	117,058	-64,515	54,653
(ブリ)	166,659	20,131	5,300	146,528	161,359
(ワラサ)	4,836	79,160	18,041	-74,324	-13,205
(ハマチ)	107	29,528	14,191	-29,420	-14,083
(ツバス)	108	107,408	79,527	-107,299	-79,418
ヒラマサ	1,307	2,264	716	-958	590
サワラ	56,538	88,500	76,703	-31,963	-20,165
サケ、マス	668	962	1,852	-294	-1,184
マダイ	13,523	21,054	19,601	-7,530	-6,077
クロダイ	2,422	1,553	1,224	870	1,198
スズキ	7,553	17,589	15,139	-10,036	-7,586
ヒラメ	789	1,255	1,448	-466	-659
フグ類	20,751	63,120	23,327	-42,369	-2,575
スルメイカ	35,018	5,252	10,014	29,767	25,004
ケンサキイカ	3,174	873	609	2,302	2,565
コウイカ	1,641	1,456	1,954	186	-312
その他	17,411	51,130	37,168	-33,720	-19,757
合 計	605,693	563,109	389,714	42,584	215,978

底びき網	(kg)				
魚種名	2017年	2016年	平年	前年差	平年差
キダイ	2,498	1,955	2,681	542	-183
スズキ	2,506	3,579	2,397	-1,073	109
ヒラメ	2,414	6,299	3,316	-3,884	-902
アカガレイ	87,087	61,405	102,480	25,681	-15,393
その他カレイ	50,418	30,817	39,762	19,602	10,656
フグ類	2,631	19,611	2,765	-16,980	-134
ハタハタ	8,778	3,850	33,365	4,928	-24,587

底びき網の続き	(kg)				
魚種名	2017年	2016年	平年	前年差	平年差
メバル類	1,328	1,450	1,358	-122	-30
ケンサキイカ	2,194	836	665	1,358	1,529
ホタルイカ	140,252	146,427	267,231	-6,175	-126,979
その他イカ	3,085	109	184	2,975	2,900
タコ類	2,877	3,442	5,591	-565	-2,714
アカエビ	33,419	31,234	37,557	2,185	-4,139
その他エビ	3,574	2,718	5,189	856	-1,615
その他	27,161	31,717	34,063	-4,556	-6,901
合 計	370,222	345,450	538,603	24,772	-168,381

釣り、延縄、さし網、その他の漁法	(kg)				
魚種名	2017年	2016年	平年	前年差	平年差
ブリ	2,549	2,721	975	-172	1,575
ワラサ	7,072	10,660	2,226	-3,587	4,847
サワラ	5,478	3,009	655	2,469	4,823
マダイ	3,964	2,387	4,693	1,577	-729
キダイ	1,642	3,762	2,285	-2,120	-643
アマダイ	3,744	4,327	4,320	-583	-577
スズキ	1,122	765	2,459	358	-1,337
ヒラメ	2,650	4,868	6,079	-2,218	-3,430
その他カレイ	8,624	6,761	13,282	1,863	-4,658
サヨリ	1,142	7,222	7,269	-6,080	-6,127
メバル類	3,484	5,002	12,235	-1,518	-8,752
スルメイカ	5,131	15,352	24,197	-10,221	-19,066
コウイカ	2,838	3,236	3,001	-399	-163
タコ類	8,401	12,049	11,380	-3,648	-2,979
その他	49,656	70,689	75,830	-21,033	-26,175
合 計	107,496	152,809	170,887	-45,313	-63,391

全漁法	(kg)				
魚種名	2017年	2016年	平年	前年差	平年差
合 計	1,083,411	1,061,368	1,099,204	22,043	-15,794

※1 平年の値は2007-2016年の10年平均です。 ※2 ()は銘柄、その他カレイはアカガレイ以外のカレイ類、その他エビはアカエビ以外のエビ類です。

※3 数値は小数点以下を四捨五入しています。

〔近隣府県の漁模様〕

(漁獲状況…石川県：4月の定置網の1日あたりの漁獲量。京都府：4月にJF京都魚連舞鶴地方卸売市場へ水揚げされた定置網の1日あたりの漁獲量。兵庫県：4/1-4/30の余部定置網の1日あたりの漁獲量。鳥取県：4月中旬~5月上旬のまき網の1統あたりの漁獲量。)

石川県…定置網…ブリ3.9t、スルメイカ1.9t、マアジ1.8t、サワラ類1.0t、ウルメイワシ0.9t、マダイ0.9t

京都府…定置網…カタクチイワシ6.2t、ブリ4.4t、サワラ類4.0t、スルメイカ1.1t、マアジ0.3t

兵庫県…定置網…マルゴ(2.5~4kgのブリ)887kg、マアジ588kg、ハマチ(0.8~2.5kgのブリ)45kg、スズキ38kg、サワラ9kg

鳥取県…まき網…マアジ18.8t、マサバ18.5t、マイワシ15.1t、ブリ類5.3t、ウルメイワシ5.2t、カタクチイワシ1.5t

(漁場環境グループ 山下 慎也)

九頭竜川産サクラマスの増殖を目指して

【サクラマスの聖地】

九頭竜川は新潟県の信濃川などに並んで大型のサクラマスが遡上してくることから、サクラマスの聖地として県内外から毎年5,000人以上の釣り人が訪れます。

回遊を終えたサクラマスは海から生まれた河川に遡上します。川ではほとんど餌を食べずに夏場は水温の低い淵などで過ごし、水温が下がった秋頃、より上流の支流を目指して移動し、流れのある礫の多い河底で産卵を行います。しかし、支流の途中にある堰堤により遡上ができずUターンを余儀なくされ、下流のわずかな適地でしか産卵ができないことがあります。また、他のペアの産卵と重なると、最初に産んだ卵が掘り起こされ、せっかくの資源が失われます。

こうしたことから、内水面総合センターでは、モデル河川にサクラマスが上流へ上れるような簡易魚道を設置してその効果調査や、人工産卵床の実証試験を実施しました。

【増殖への取組み】

モデル河川は九頭竜川の支流である勝山市の岩屋川を選定しました。岩屋川は毎年サクラマスの遡上が確認されているものの九頭竜川の合流点から1.1km上流に高さ約1.5mの堰堤があることから、それより上流に遡上できません。このため、堰堤に簡易魚道とその下流に人工産卵床を設置しました。

簡易魚道はコンテナや足場パイプとクランプなど市販資材を用いた低コスト短期設置型としました（図1）。

人工産卵床は鉄製角型の枠（133cm×88cm×40cm）に樹脂製ネットを側面と底面に張ったものをユニットとし、サクラマスが産卵場所として好む大きさの礫（径2cm～15cm）を積層しました。産卵床枠の長辺側に塩化ビニルパイプを取り付け、ヨシなどの植物を差し込み、隠れ場所を設けました（図2）。

簡易魚道では、平成27年11月11日に大型サクラマス1尾の遡上が確認されました。平成28年度は遡上が確認できませんでしたが、これは河川流量が多く、サクラマスが遡上経路を見失ったことも考えられました。

人工産卵床では、平成27年度は産卵は確認できませんでしたが、平成28年度には10月30日に最初の産卵行動が確認され、その後11月下旬まで他の親魚による重複産卵が確認されました。その後12月7日に人工産卵床の一部を掘り返したところ、サクラマスの受精卵が確認され、今回考案した人工産卵床が天然サクラマスの産卵場となることが実証されました。

今後は、簡易魚道や人工産卵床の機能継続性を明らかにし、低コストで出来る資源増大の一環として、漁協などが自発的な事業展開を図っていただけるよう考えていきます。



図1 簡易魚道



図2 人工産卵床ユニット